| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 国語 | 国語表現 | 3年　・　普通科Ⅰ類型 | 2 |

学習の目標

1　国語で適切に表現する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を養います。
2　進路目標に応じた表現力を身に付けることも目標とします。

学習の内容

1　表現の実践（三）
「意見・主張」を表現する際の技術について学びます。教材としては「考えを発表する」「話し合いをする」「ディベートをする」をする予定です。
2　表現の実践（四）
「論述」の方法について学習します。教材は「課題作文を書く」「小論文を書く」を扱う予定です。
3　表現の探究
「日本語の理解」「表現の研究」の二分野について学習します。教材としては「日本語の特徴」「敬語の分類」「ニュアンスを変える助詞」「日本語のレトリック」を扱う予定です。

評価の観点

1　関心・意欲・態度
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。
2　話す・聞く能力
目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。
3　書く能力
相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。
4　読む能力
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。
5　知識・理解
伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。

評価の方法

1　上記の５つの評価の観点から総合的に評価します。
2　考査、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取組など、全ての学習活動を評価の対象とします。

その他

「読む」「書く」「話す」「聞く」能力は、我々の生活や自己実現にとって欠かせない、基本的な能力であり、その根本は、すでに家庭生活や義務教育の中で育まれているでしょう。
我々の生きる社会は日々多様化し複雑さを増しています。特に、21世紀を担う生徒諸君は、世界中の（宗教や歴史政治信条の異なる）人々と対話していかなければなりません。立場や意見を異にする人々ともスムーズに意思疎通でき、さらに、深く豊かな情操を感得し、普遍的な人間性に思いを致すことが、混迷する現代を生き抜く力を支えるものと信じます。
それには、まず、基礎的語彙が身に付くまで、何度も何度も繰り返し読み書くことです。そして、文章を声に出して読んでみてください。また、学習は目と頭だけでするものではありません。五感をフルに活用して、楽しく取り組みましょう。国語力は読書量に比例するとも言われています。本校では、『朝の読書』に取り組んでいます。これをよい機会として、本に親しんでください。
授業で分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 国語 | 現代文Ｂ | ３年　　普通科・ライフデザイン科 | 2 |

学習の目標

１　近代以降の文章について、読解・鑑賞の方法を習得し、ものの見方・考え方を深めること、また、自分の考えをまとめて適切に表現する能力（「書く」・「話す」）を身に付けることが目標です。
２　２年次の現代文で培った「読む」力・「書く」力を、自分に必要な具体的な“生きる力”に高めていきます。

学習の内容

評論・小説・随想・韻文の４つのジャンルについて、近・現代を代表する筆者（作者）の作品を読み、現代文へのアプローチの仕方や読み解き方を学びます。理解や表現に必要な、基礎的な語彙力を充実させることに力点をおいて学習します。
現代社会や人間の普遍的な問題について、自分の日常や将来の生き方に結びつけて考える取組を実践していきます。基礎的語彙を適切に組み合わせて使えるか、などの実践力・応用力の養成に力点をおきます。
学習予定作品は、随想「食と想像力」　小説「話を聞かせて」　評論「記憶のゆがみ」「物語を発現する力」　詩「食事」　評論「鏡としての他者」「僕らの時代のメディア・リテラシー」　小説「卒業」　短歌と俳句「折々のうた」　評論「経験の教えについて」　小説「山月記」です。

評価の観点

１　関心・意欲・態度
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。
２　話す・聞く能力
目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。
３　書く能力
相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。
４　読む能力
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。
５　知識・理解
伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。

評価の方法

１　上記の５つの評価の観点から総合的に評価します。
２　考査、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取組など、全ての学習活動を評価の対象とします。

その他

「読む」「書く」「話す」「聞く」能力は、我々の生活や自己実現にとって欠かせない、基本的な能力であり、その根本は、すでに家庭生活や義務教育の中で育まれているでしょう。
我々の生きる社会は日々多様化し複雑さを増しています。特に、21世紀を担う生徒諸君は、世界中の（宗教や歴史政治信条の異なる）人々と対話していかなければなりません。立場や意見を異にする人々ともスムーズに意思疎通でき、さらに、深く豊かな情操を感得し、普遍的な人間性に思いを致すことが、混迷する現代を生き抜く力を支えるものと信じます。
それには、まず、基礎的語彙が身に付くまで、何度も何度も繰り返し読み書くことです。そして、文章を声に出して読んでみてください。また、学習は目と頭だけでするものではありません。五感をフルに活用して、楽しく取り組みましょう。国語力は読書量に比例するとも言われています。本校では、『朝の読書』に取り組んでいます。これをよい機会として、本に親しんでください。
授業で分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。

| 教科 | 科　目 | 学年・課程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 地理歴史 | 日本史A | 3年普通科Ⅰ類型、3年ライフデザイン科 | 2 |

学習の目標

1　近代の日本史を科学的に理解することを目指します。
2　近代以降の日本の歴史の認識に対する多様な見方・考え方を学び、未来の日本について主体的に考える態度を養うことを目指します。

学習の内容

【第1編】　近代の日本と世界
　江戸末期からの幕藩体制の動揺と欧米列強のアジア進出について学習します。さらに、明治維新の政治改革と、近代産業の発達とその変化について学習します。
【第2編】　大戦期の世界と日本
　大正・昭和初期における日本の政治や社会の変動について学習します。さらに、国際関係における日本の立場と第二次世界大戦までの歴史を学習します。
【第3編】　現代の世界と日本
　第二次世界大戦後の日本の政治や社会の動向を国際政治の動きと関連させながら学習します。さらに、現代の日本社会が直面する課題についても考察していきます。

評価の観点

1　関心・意欲・態度
　歴史的な事物・事項に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組めているか、また、積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。
2　思考・判断・表現
　近現代史を中心に、地理的な条件や世界の歴史との関連も踏まえて、現代のさまざまな問題を歴史的な観点から考えることができるか、その考えをもとに自分なりに日本史に対する内容の研究・分析を行い、表現できるかを評価します。
3　資料活用の技能
　地図や写真・絵画資料などを活用できる技能を習得できたかを評価します。
4　知識・理解
　歴史の流れを正確にとらえ、歴史的な事物・事項に対する基本的な内容を理解し、知識を身に付けているかを評価します。

評価の方法

1　関心・意欲・態度　…　授業態度・提出物などをもとに評価します。
2　思考・判断・表現　…　定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。
3　資料活用の技能　…　授業中に行う作業学習などをもとに評価します。
4　知識・理解　…　定期考査の結果をもとに評価します。

| 教科 | 科　目 | 学年・課程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 公民 | 政治・経済 | 3年普通科Ⅰ・Ⅱ類型・ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ科 | 2 |

**学習の目標**

1　現代社会の学習を基礎として、さらに民主主義の本質についての理解力を身に付けることを目指します。

2　政治・経済に関する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養うことを目指します。

**学習の内容**

【第1編】　現代の政治

第1章で民主政治の基本原理と日本国憲法を、第2章で現代の国際政治と日本の現状を学習します。また、私たちの一生は、どのようなしくみの中で政治と関わっているのかを考えていきます。

【第2編】　現代の経済

第1章で現代経済のしくみと特質を、第2章で国民経済と国際経済を学習します。また、雇用や賃金のしくみが変化していく中で、豊かな人生を送る術を考えていきます。

【第3編】　現代社会の諸課題

第1章で現代日本の政治や経済の諸課題を、第2章で国際社会の政治や経済の諸課題を学習します。現代の社会で解決しなければならない課題（少子高齢化問題・食糧問題・公害問題など）を、政治と経済を結び付けて考えていきます。

**評価の観点**

1　関心・意欲・態度

政治・経済に関する出来事に興味・関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組めているか、また積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。

2　思考・判断・表現

日本という国が現在どのような立場に置かれているのかという現状を把握するとともに、身近な地域社会で自分は何ができるのかということが考察できているか、さらにその考察に対する内容の研究・分析を行い、それらを理解し表現できるかを評価します。

3　資料活用の技能

統計資料を読み解く力を身に付けているかを評価します。

4　知識・理解

政治・経済に関する基本的な内容を理解するとともに、さらに実生活に役立つ知識を身に付けているかを評価します。

**評価の方法**

1　関心・意欲・態度　…　授業態度・提出物などをもとに評価します。

2　思考・判断・表現　…　定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。

3　資料活用の技能　…　授業中に行う作業学習などをもとに評価します。

4　知識・理解　…　定期考査の結果をもとに評価します。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 数　学 | 数　学　Ⅱ | ３年普通科Ｉ類型 | 2 |

学習の目標

1　いろいろな関数
　三角関数、指数関数及び対数関数について理解し、関数についての理解を深めそれらを具体的な事象の考察に活用できるようにします。
2　微分・積分の考え
　具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにします。

学習の内容

1　いろいろな関数
　三角関数と加法定理、指数関数と対数関数について学習します。
2　微分・積分の考え
　微分係数と導関数、関数の値の変化、積分法について学習します。

評価の観点

1　関心・意欲・態度
　数学的活動を通して三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法における考え方に関心をもっているか、また、意欲的に課題に取り組むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを身近な事象の考察に活用しようとする態度を身に付けているかを評価します。
2　数学的な見方や考え方
　数学的活動を通して三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法における数学的な見方や考え方を見いだそうとしているか、また、見いだした数学的な見方や考え方をもとに事象をとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えているかを評価します。
3　数学的な技能
　三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法において、事象を数学的に考察して適切な計算方法やグラフを用いて処理できているか、事象を表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できているかを評価します。
4　知識・理解
　三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基本的な知識を身に付けているかを評価します。

評価の方法

1　上記の４つの評価の観点から総合的に評価します。
2　考査・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とします。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 数　学 | 数学研究Ｂ | ３年普通科Ｉ類型・ライフデザイン科 | 2 |

学習の目標

1　方程式と不等式
　数の拡張の意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、１次方程式・１次不等式及び２次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにします。
2　２次関数
　関数の意味について理解を深めるとともに、関数の最大値・最小値を求めることや２次不等式の解を求めることができるようにします。
3　図形と計量
　正弦、余弦及び正接の意味や正弦定理・余弦定理を理解し、平面図形や空間図形の計量などに活用できるようにします。
4　場合の数と確率
　順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数学的にとらえ、事象を数学的に考察し処理できるようにします。
5　平面図形
　三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにします。

学習の内容

1　方程式と不等式
　式の計算、実数、方程式と不等式について学習します。
2　２次関数
　２次関数とグラフ、２次関数の値の変化、２次不等式について学習します。
3　図形と計量
　三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量について学習します。
4　場合の数と確率
　集合と要素の個数、場合の数、確率について学習します。
5　平面図形
　三角形の性質、円の性質について学習します。

評価の観点

1　関心・意欲・態度
　方程式と不等式、２次関数及び図形と計量、場合の数と確率、平面図形における考え方に関心をもっているか、また、意欲的に課題に取り組むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを身近な事象の考察に活用しようとする態度を身に付けているかを評価します。
2　数学的な見方や考え方
　方程式と不等式、２次関数及び図形と計量、場合の数と確率、平面図形における数学的な見方や考え方を見いだそうとしているか、また、見いだした数学的な見方や考え方をもとに事象をとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えているかを評価します。
3　数学的な技能
　方程式と不等式、２次関数及び図形の計量、場合の数と確率、平面図形において、事象を数学的に考察して適切な計算方法やグラフを用いて処理できているか、事象を表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できているかを評価します。
4　知識・理解
　方程式と不等式、２次関数及び図形と計量、場合の数と確率、平面図形における基本的な概念、原理、法則、用語記号などを理解し、基本的な知識を身に付けているかを評価します。

評価の方法

1　上記の４つの評価の観点から総合的に評価します。
2　考査・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とします。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年・課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 理　科 | 化学基礎 | 2年普通科Ⅱ類型<br>3年普通科Ⅰ・Ⅱ類型、ライフデザイン科 | 2 |

**学習の目標**

1　日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養うことを目指します。

2　進路目標に応じた理数系の能力を身に付けることを目指します。

**学習の内容**

1　物質の成り立ち

物質の探究、物質の構成粒子、物質と化学結合について学び、基本的な原子、分子、イオンの概念を整理して内容を深化させます。化学と人間生活に関連して、文明の中で変遷してきた金属やプラスチックの概要を学びます。

2　物質の変化

基本となるモルの概念、酸と塩基、酸化・還元の項目について学習し、発展的な河川水の汚染状況の調査や備長炭電池などエネルギーや電気分解について探究します。化学と人間生活に関連して、食品添加物、洗剤、農薬、セラミックスなど具体的な物質を学習し、理解を深めていきます。

**評価の観点**

1　関心・意欲・態度

化学的な事物・現象に関心を持ち、意欲的に探究して化学的なものの見方を身に付けているかを評価します。

2　思考・判断・表現

化学的な事物・現象の中に問題を見いだし、観察・実験などを行うとともに、実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、事実に基づいて導き出した考えを表現できるかを評価します。

3　観察・実験の技能

化学的な事物・現象に関する観察実験の技能を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できるかを評価します。

4　知識・理解

観察・実験などを通して、化学的な事物・現象についての基本的な概念や原理や法則を理解し、知識を身に付けているかを評価します。

**評価の方法**

1　評価の内訳は、「関心・意欲・態度」20%、「思考・判断・表現」30%、「観察・実験の技能」20%、「知識・理解」30%です。

2　定期考査、授業中の学習の様子、観察実験の技能、課題の提出状況などをもとに評価を行います。

**その他**

○化学の実験では、薬品を使用しますので、先生の指示に従って安全に実験してください。

○夏休み等の長期休業前にサイエンス関連の催しものを紹介するので、希望者は積極的に参加して学習を行ってください。

○授業でわからないことがあったら、理科の先生へすぐ質問しましょう。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 芸術 | 音楽Ⅱ | 3年　普通科　Ⅰ類型 | 1 |

学習の目標

1　音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深めます。

2　様々な音楽を系統的に鑑賞し、音楽文化についての知識と理解を深めます。

学習の内容

1　近・現代の音楽を通して、新しい音楽のあり方を理解し、今後の音楽のあり方を想像することで、鑑賞への興味や関心を高めます。

2　日本の伝統音楽、民俗音楽と合わせて、世界の諸民族の音楽の価値を認識し、異文化に対して関心を持ち、意欲的に鑑賞する態度を身に付けます。

3　グループでの演奏発表を通して、表現の創意工夫の方法を学習します。

評価の観点

1　関心・意欲・態度
　音楽を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているかを評価します。

2　表現の創意工夫
　感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫しているかを評価します。

3　表現の技能
　創造的な芸術表現をするために必要な技能を身に付けているかを評価します。

4　鑑賞の能力
　音楽を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わっているかを評価します。

評価の方法

1　各学期の評点は、授業内で行う実技試験、筆記試験と、各活動に取り組む姿勢を考慮して評価します。

2　関心・意欲・態度２０％　表現の創意工夫２０％　表現の技能２０％
鑑賞の能力４０％を基準に評価します。

その他

資料等を整理するA4サイズのファイルを準備して下さい。（２年次と継続）
進路に音楽が必要な者は、早めに相談に来て下さい。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 芸術 | 美術Ⅱ | 3年　普通科　Ⅰ類型 | 1 |

**学習の目標**

1　美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を養うことを目指します。

2　感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることを目標とします。

**学習の内容**

1　絵画・彫刻
　自然、自己、社会などを深く見つめて主題を生成し、表現形式を選択するとともに、創造的で心豊かな表現の構想を練る力を養います。

2　デザイン
　自然、自己、社会などを深く見つめて、生活を美しく豊かにするデザインの働きを考え、創造的で心豊かな表現の構想を練る力を養います。

3　鑑賞
　作品や作者の個性などに関心をもち、発想や構想の独自性、表現の工夫などについて多様な視点から分析し、心豊かな生き方の創造にかかわる美術の働きについて理解を深めます。

**評価の観点**

1　関心・意欲・態度
　美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか評価します。

2　発想や構想
　感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫しているかを評価します。

3　表現の技能
　創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けているかを評価します。

4　鑑賞の能力
　作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさを創造的に味わおうとしているかを評価します。

**評価の方法**

1　各学期の評点は、各活動への取組と、授業内で制作した作品を考慮して評価します。

2　関心・意欲・態度２５％、発想や構想２５％、創造的な技能３５％、鑑賞の能力１５％を基準として評価します。

**その他**

制作に関して分からないことや疑問があれば、積極的に質問して下さい。
美術系進路を考えている人は、早めに相談に来て下さい。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 保健体育 | 体育 | 3年普通科Ⅰ類型・Ⅱ類型 | 3 |

学習の目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習の内容

体つくり運動では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を行います。特に体力を高める運動を行い、体力の増進を目指します。体つくりでは運動実施後の達成感や充実感が得られるよう、内容を精選しコミュニケーションや人とのふれあい、言語活動能力を養っていきます。

球技では、年間の気候を考慮した授業を計画します。ネット型(バレーボール・バドミントン・テニス・卓球)　ベースボール型(ソフトボール)　ゴール型(サッカー・バスケットボール)から選択し、ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から、作戦をたてたり、工夫をしたりすることの楽しさを味わいます。

陸上競技では、学校外のコースを自分の能力に応じたペースで走ったり、記録に挑戦したりして、自己の課題を克服する気持ちを育てます。

体育理論ではスポーツのルールはもちろんのこと運動の大切さやメカニズムについて理解させ、生涯を通じて運動を実践できる能力や態度を養っていきます。

ダンスではフォークダンスをみんなで踊ったり、創作したりすることにより、リズムに乗って体を動かすことの楽しさを味わうとともに、自他の良さを認め合うことの大切さを育てます。

評価の観点

1　関心・意欲・態度
　運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで計画的に運動しようをしているか評価します。
　公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いているか評価します。
　健康や安全に留意して運動しようとしているか評価します。
2　思考・判断
　自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけだしているか評価します。
　課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか評価します。
3　運動の技能
　己の能力と運動の特性に応じた課題を目指して運動を行い技能を高めているか評価します。
　自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけているか評価します。
4　知識・理解
　社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し身につけているか評価します。

評価の方法

1　各運動種目とも、スキルテスト・グループノート等を利用して評価します。
　特に集団競技においてはグループでのミーティング・グループ練習での活動を大切にし、ゲーム終了後にチームの問題点をフィードバックして修正する時間を与え、活動の様子も評価します。

2　各運動種目とも、「関心・意欲・態度 20%」「思考・判断 20%」「運動の技能 40%」「知識・理解 20%」で評価します。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 外国語 | コミュニケーション英語Ⅱ | 3年普通科Ⅰ類型 | 2 |

学習の目標

1　英文を読んだり聞いたりして、情報や考えを理解し、概要や要点をとらえることができるようになることを目指します。

2　聞き手に伝わるよう音読ができるようになることを目指します。

3　学んだことに基づき、英語で書いたり話し合ったりして意見の交換ができるようになることを目指します。

学習の内容

Lesson 7　Fuji, a Dolphin With a New Fin

Lesson 8　Do We Need That ?

Activity 2 Express Your Our Opinion

Lesson 9 Changing Feelings

文法のまとめ3

Lesson 10　Ban Shigeru, Architect of Paper

Lesson 11　Win for Our Nation

Lesson 12　From Small Factories to the World

Challenge 2 Let's Make English Haiku!

文法のまとめ4

Reading 2 Acting for the Future

評価の観点

1　コミュニケーションへの関心・意欲・態度

　コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを評価します。

2　外国語表現の能力

　学習したことや与えられた話題について、英語で話したり書いたりして表現できているかを評価します。

3　外国語理解の能力

　英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解しているかを評価します。

4　言語や文化についての知識・理解

　言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解しているかを評価します。

評価の方法

1　各学期の評価は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解を総合的に評価します。

2　授業での小テストや課題への取組、提出物、授業態度なども評価の対象とします。

3　長期休業中の課題および実力テストの結果も評価の対象とします。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 商業 | 課題研究 | 3年普通科　Ⅰ類型 | 4 |

学習の目標

商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図りながら、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付けることを目標とします。

学習の内容

（1学期）1　課題の設定
　　2　課題の学習
　　3　課題の解決を図る学習
（2学期）1　課題の学習
　　2　課題の解決を図る学習
（3学期）1　課題研究の成果について発表
　　2　課題の成果についての考察

評価の観点

1　関心・意欲・態度

ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするととともに、実践的な態度を身に付けているかを評価します。

2　思考・判断・表現

ビジネスの諸活動に関する諸活動に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているかを評価します。

3　技能

商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用しているかを評価します。

4　知識・理解

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解しているかを評価します。

評価の方法

1　上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。
2　評価の対象となる主な項目は次のとおりです。
観点評価1…授業への取組、ノート・プリント・ワークブックの提出
観点評価2…定期考査、プレゼンテーション
観点評価3…定期考査、実技練習
観点評価4…定期考査

その他

課題設定については、
（1）情報処理検定、ビジネス文書実務検定の上級資格取得
（2）珠算・電卓実務検定、財務諸表の分析など
（3）エコノミクス甲子園、商い甲子園など　3項目の中から課題を設定して学習します。

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 商業 | 簿　　記 | 3年普通科　Ⅰ類型 | 3 |

学習の目標

企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得し、簿記の基本的な仕組みについて理解するとともに，ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付けることを目標とします。２年次に続き、商品売買業を営む個人企業の発展的な会計処理、株式会社の基本的な会計処理について学び、企業を支える力を育てます。

学習の内容

1　取引の記帳と決算Ⅱ

決算（その２）、特殊な商品売買・手形取引の記帳、決算（その３）

2　本支店の会計

支店の取引、本支店の財務諸表の合併

3　複合仕訳帳制による記帳

現金出納帳、当座預金出納帳　仕入帳・売上帳、普通仕訳帳

4　株式会社の記帳

設立と開業の記帳　剰余金の処分に関する記帳　社債の記帳

株式会社の税金の記帳

5　発展学習　棚卸減耗費および商品評価損の計算

評価の観点

1　関心・意欲・態度

個人企業における簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得をめざして意欲的に取り組むとともに、企業において日常発生する取引について適正な会計処理を行う実践的な態度を身に付けているかを評価します。

2　思考・判断・表現

いろいろな処理法や記帳法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けており、また、適正な会計処理を行う能力を適切に表現できるかを評価します。

3　技能

個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身に付けているかを評価します。

4　知識・理解

個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の基本的なしくみについて理解しているかを評価します。

評価の方法

1　上記の４つの評価の観点から総合的に評価します。

2　評価の対象となる主な項目は次のとおりです。
観点評価１…授業への取組、ノート・プリント・ワークブックの提出
観点評価２…定期考査、小テスト
観点評価３…定期考査、記帳練習
観点評価４…定期考査、小テスト

その他

受験できる資格の例は、次のとおりです。
全商主催簿記実務検定試験　２級・３級

| 教　科 | 科　　目 | 学　年　・　課　程 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 商　業 | 情報処理 | 3年普通科Ⅰ類型 | 3 |

学習の目標

情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について理解するとともに、情報を適切に収集、処理し活用する能力と態度を身に付けることを目標にします。

学習の内容

（1学期）　1　データベースの活用

（2学期）　2　情報通信ネットワーク

（3学期）　3　情報化社会のセキュリティとモラル

評価の観点

1　関心・意欲・態度

情報の収集・処理・分析・表現に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けているかを評価します。

2　思考・判断・表現

ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているかを評価します。

3　技能

情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用しているかを評価します。

4　知識・理解

情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解しているかを評価します。

1　上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。

2　評価の対象となる主な項目は次のとおりです。
観点評価1…授業への取組、ノート・プリント・ワークブックの提出
観点評価2…定期考査、小テスト
観点評価3…定期考査、実技練習
観点評価4…定期考査、小テスト

その他

取得できる資格は、次のとおりです。

全商主催情報処理検定試験（ビジネス情報部門）1・2級

全商主催ビジネス文書実務検定1・2級